

# 守山の「歴史」の魅力を探る



モリヤマジュニアリポーターの皆さん(上は埋蔵文化財センター所蔵品)

今回のテーマは「守山の歴史」。埋蔵文化財センターで守山で発見された遺跡やセンターの成り立ち、古代の暮らしを体験・取材したリポーターからの報告記事です。

埋蔵文化財センターは、野洲川の工事中に発見・調査された服部遺跡の出土品を保存管理するために建てられました。

現在は縄文時代から中世まで市内で発見された約150の遺跡の発掘調査や出土品を保存管理、復元(修復)、研究するための拠点となっています。

下之郷遺跡や伊勢遺跡など、守山を代表する遺跡も、埋蔵文

化財センターの研究成果によって注目され、国史跡に指定されました。

埋蔵文化財センターでは、歴史のまち守山の魅力を発信するとともに、若い人から大人までたくさんの人に考古学や市内の歴史を好きになってもらうと特別展や歴史講演会なども開いています。

モリヤマジュニアリポーターは守山の魅力について、テーマの検討から現地でのインタビュー、写真撮影、執筆まで、小学生リポーター独自の目線で紹介するコーナーです。

- ①遺物の修復作業に挑戦
- ②火おこし体験、昔の暮らしは大変だったね
- ③岩崎 茂所長の案内で倉庫を見学。たくさんの土器を保管しています
- ④下之郷史跡公園で発見された状態の出土品が展示されていました

## 野洲川工事で遺跡発見 遺跡をもっと知りたい

小学6年生 中嶋 遥陽

埋蔵文化財センターは、1974年夏、野洲川の工事に伴って遺跡が発見された事がきっかけで建てられました。弥生時代から鎌倉時代の生活の跡が残っていました。

ぼくは、学校で歴史を習っているの遺跡に興味があります。守山にたくさん遺跡があることに驚きました。遺跡についてもっと知りたいと思いました。火おこしの体験では、なかなか火がつかなくなりましたが最後には火がつかれました。昔は今と違って火をつける事に苦労していたんだと思いました。

## 発掘の土器や武器を保管 昔の暮らしを学ぶ場所

小学5年生 畑辺 航佑

埋蔵文化財センターは、昔のことを学べる場所です。発掘された土器や石器を保管したり、調査や展示をしています。

ぼくは、火おこしを体験しました。辛い体勢で時間がかかって大変でした。生活の中で火はよく使う物なので、昔の人はとても苦労して火をおこしていたんだなと思いました。他にも、昔の事を取材して、現在はいろいろな役に立つ物ができているから、自分たちも生活で役に立つ物を発展させてみたいです。

## 遺物の整理体験で知った 歴史残す作業の大変さ

小学5年生 池内 冴映

火おこしや遺物の整理の方法について、体験を通して学びました。火おこしは、紐を巻きつけた錐を下に押し回す動作を繰り返します。やっているうちにだんだん手と腰が痛くなり大変な思いをしました。

遺物の整理では、土器の欠片を形や模様を手掛かりにくっ付けていく「接合」を体験。欠片が揃っていることが殆どないので根気がいる作業です。昔の人たちの歴史を大切に残すために、いろんな作業が行われていると知りました。

## 市内で発見の遺物学び 昔の土器の感触を体験

小学5年生 岡 誠葉

ぼくは、埋蔵文化財センターにレポートに行きました。守山の遺跡からは、馬形はにわ、儀仗、立かざり、どぐう、かえ、やまと琴、たてぐし、銅印などが出土していました。

ぼくは、土器の修復をしました。土器の感触はざらざらで砂を凍らせたみたいでした。土器の欠片を組み合わせてぴったりつながったうれしかったです。それでも隙間が少なくて良かったです。紙と墨で土器の模様を写し取る「拓本」も体験しました。

